

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	子育てサポーター養成事業			事業番号	06-103
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	子ども部	岩田 孝	子育て支援課	齋藤 浩人	

計 画 (Plan)

総合計画体系	暮らし力	まちづくり目標	1	誰もが明るく暮らせるまち		
		基本政策	2	子どもの成長をみんなで喜ぶまちづくり		
		施策展開の方向	1	子どもを産み育てやすい環境のまちをつくる		
		施策	6	子育て家庭への支援充実		
予算事業名	子育てサポーター養成事業費					
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→			法令上の位置づけ	実施する規定はない	
事業開始年度	開始年度	平成17年度	～	終了年度	-	
関連法令等	児童福祉法、次世代育成支援対策推進法、伊勢原市子育てサポーター養成事業実施要綱					
国・県の計画等	-			計画期間	-	
関連個別計画	いせはらっ子応援プラン			計画期間	平成22年度～平成26年度	
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	核家族化の進展や地域とのつながりの希薄化により、育児やしつけに不安を抱えてしまう孤立しがちな保護者に対し、地域で相談や助言などができる子育て環境が求められている。					
目的 (何をどうしたいのか)	地域の子育て支援を担う子育てサポーターを養成し、地域ぐるみで子育て世代への支援を行う。					
主な対象 (誰・何を対象に)	子育ての経験や関心があり、子育て相談や情報提供等の支援に協力できる人又は活動している人。					
事業内容 (手段、手法など)	・子育てに関する講義や保育園実習などによる、子育てサポーター養成講座を実施し、新たな子育てサポーターを養成するとともに、子育てサポーターの資質向上を目指したスキルアップ研修を開催します。					
事業行程	項目	年度				
		28年度	29年度			
	養成講座	28年度	29年度	継続実施	継続実施	
	スキルアップ研修	28年度	29年度	継続実施	継続実施	
目 標	【指標名】	【現状】	年度			
			28年度	29年度		
	子育てサポーターの認定登録者数(年度末時点・累計)	145人	28年度	29年度	180人	190人



事業実施(Do)へ

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	地域的に偏りがない子育てサポーターの増員と、サポーターのスキルアップが不可欠となる。		
実施方法 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> すべて直接実施 <input type="radio"/> 左記以外		
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者
	<input type="checkbox"/> 補助金		補助先
	<input type="checkbox"/> その他		具体的内容
実施結果	項目	年度	
		28年度	29年度
	養成講座	継続実施	
	スキルアップ研修	継続実施	
実施した取組の内容	・子育てサポーターを養成するため、基礎知識や実践的専門知識を習得するための講座を実施した。 ・現任の子育てサポーターには、スキルアップ研修を実施した。		
目標の達成状況	【指標名】	【現状】	年度
			28年度
	子育てサポーターの認定登録者数(年度末時点・累計)	145人	143人
			29年度

年度		28年度 実績				29年度 実績			
内訳	事業費合計 (a)	103	千円						千円
	国県支出金 ①	0	千円						千円
	地方債 ②	0	千円						千円
	その他特財 ③	0	千円						千円
	一般財源 (a)-①-②-③	103	千円					0	千円
国県支出金の内容									
コスト	その他特財の内容	受益者負担	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		前回の改定時期				
		その他							
人件費	正規職員	0	人	0	千円		人		千円
	その他の職員	0.67	人	1,628	千円		人		千円
	人件費合計 (b)	0.67	人	1,628	千円		人		千円
トータルコスト (a)+(b)				1,731	千円				千円
単位当たりコスト	対象数	定義	子育てサポーター認定登録者		単位				単位
		対象数	143		人				
	総事業費／対象数	12,105		円					円

評 価 (Check)

<p>進捗状況 〔選択・記入〕</p>	<p><input type="radio"/> 計画どおり (A) <input checked="" type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)</p>	<p align="center">B</p>	<p>左記判断理由</p>	<p>子育てに関する講義やボランティア養成講座を実施し、新たな子育てサポーターを養成するとともに、現任サポーターの資質向上を目的としたスキルアップ研修を実施した。</p>
<p>実施水準 〔選択・記入〕</p>	<p><input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input checked="" type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業</p>	<p align="center">B</p>	<p>他都市の事業内容等</p>	<p>近隣市(県央地区)の状況としては、厚木市、大和市、海老名市、愛川町が実施しており、座間市、綾瀬市では未実施となっている。</p>
<p>有効性 〔選択・記入〕</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)</p>	<p align="center">A</p>	<p>左記判断理由</p>	<p>子育てサポーターの養成は、育児不安等を抱える保護者が気軽に相談できる環境を確保し、「地域の子育ては地域が担う」意識の醸成につながることから、有効性が高いと認められる。</p>
<p>効率性 〔選択・記入〕</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)</p>	<p align="center">A</p>	<p>左記判断理由</p>	<p>子育て支援センター事業やこんには赤ちゃん訪問事業等を通じて、育児不安を抱える保護者と、子育て経験を生かして地域貢献したい子育てサポーターが関わり合うことで、地域による効率的な子育て支援が実施されている。</p>

 取組の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)

<p>所属長による今後の方向性の判断</p>	<p>方向性 〔選択〕</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続</p>	<p>事業推進上の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 継続的かつ安定的に事業を展開するために、必要となる子育てサポーター登録数を確保するとともに、現任サポーターのスキルアップが必要である。 地域の実情に即した子育て支援を実施するため、地域間のバランスがとれた子育てサポーターの養成が必要になる。 子育てサポーター連絡会の自立に向けた指導・育成を図り、連携・協力した事業運営を促進する必要がある。
<p>次年度を取組方針</p>		<p>子育てに関する地域の相談役として、また市の子育て支援施策の担い手として、必要となる一定規模の子育てサポーターの人数を確保するため、養成講座の周知方法等を工夫する。 ・地域の偏りがない子育てサポーターの新規養成を図るとともに、現任サポーターのスキルアップに向けた効果的な研修を実施する。</p>		
<p>所管部長による総評</p>		<p>子育てサポーターの養成と資質向上を図る本事業は、市民と協働した地域ぐるみの子育て環境づくりを推進する上で、重要かつ不可欠な施策であると認められる。 子育てサポーターの人数は、例年、退会者が一定程度生じることから、安定的かつ継続的な施策を展開するためには、毎年、新規に子育てサポーターを養成する必要がある。併せて、任意団体である子育てサポーター連絡会の自主・自立的な活動に対する支援も必要である。</p>		